

はじめに

令和7年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山 倉 健 嗣

令和7年度のFD活動報告書をお届けいたします。報告書の作成にご協力をいただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。本報告書は令和7年度のFD活動をまとめたものです。全学及び学部、研究科のFD活動、FD研修から構成されており、本学のFDに対する取り組みを知ることができます。

令和7年度の授業は前年度に引き続き、原則対面で行われました。

学生の授業評価は、教員の授業方法・内容の改善を目的とし、「授業改善のためのアンケート」として位置づけられています。回収率向上の対策として、今年度は該当科目の授業時間内に10分程度の回答時間を設けるという運用を改めて徹底した結果、回答率は前期54.89%（前年度43.56%）、後期46.91%（前年度35.67%）へと上昇し、改善の兆しが見られました。

令和7年度の授業評価は、原則対面で授業を実施している実態に合わせ、授業形態を問う設問の削除、授業の到達目標の達成を問う設問の新設等、若干の変更を加えました。全体としての学生の授業評価の詳細は本報告書をご覧ください。学部・学科・専攻ごとの違いを知ることができますし、授業時間以外の学修時間は少ないという従来からの課題は残念ながら残っています。

令和7年度もFD委員会主催による、全学のFD講演会をオンラインで実施しました。

前期は7月29日に「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築への答申を受けて」と題し、本学に置き換えて学長 市川博先生にご講演いただきました。講演内容に関する満足度が高く、今回のテーマである「知の総和」や本学の状況など多岐にわたり理解を深めることができた、また、教育の質の向上について考える良い機会になった等、多くの意見が寄せられました。

後期は12月18日に「生成AIを授業にどう活かすか」をテーマに、教育の質向上に向けた具体的な活用や大学教育での成功事例等について、短期大学部 教授 豊田雄彦先生とデータサイエンス学部 教授 広瀬啓雄先生にご講演いただきました。AIに関する基本的な知識から現在授業で悩んでいるテーマまで幅広い話を聞くことができ参考になった、論文やレポートは完成物よりもプロセスに対する評価が重要になるとの指摘が参考になった等の意見が多く寄せられ、本テーマについての興味や関心の高さが伺える講演会となりました。

各学科・専攻の授業担当者懇談会は対面あるいはオンラインで行われました。例年と同じく参加した非常勤講師の先生より、授業の改善への多くの示唆がありました。参加された非常勤講師の先生方に感謝申し上げます。

今後ともFD活動へご協力のほどよろしくお願いいたします。